

次のユウキさんとマコトさんの会話文を読み、問い合わせよう。

ユウキさん：今日は午前中で学校が終わったり、ランチは駅前に新しくできた店にインカレーを食べに行こうよ！地理の授業で、a『高等学校 新地理総合』p.98「①(A)でつくられたチャパティをカレーにつけて食べる人々（インド、デリー）の写真を見ていたら、インカレーが食べたくなったよ。

マコトさん：いいね！インカレーといえば、この前家族と隣駅にあるインド料理店に食べに行ったよ。そのときに撮った写真がこれ（[写真1]）。インドのケーララ州出身のご主人がつくるインド料理の店なんだ。

ユウキさん：え！何これ？

マコトさん：これは、bドーサーといって、(B)と豆をすりつぶして焼いたインド式のクレープなんだよ。インドのケーララ州では、軽食や朝食としてよく食べられているんだって。

ユウキさん：(B)と豆からつくられているのだね。でもなぜ同じインドの料理でも材料が違うの？

マコトさん：それは、c地図帳や教科書の図を読み解いていくと分かるよ。ちょうどインド料理店に着いたことだし、カレーが来るまで一緒に考えてみよう。



[写真1] マコトさんが食べたドーサーの写真

問1

下線部aについて、『高等学校 新地理総合』（以下、教科書）p.98を見て、インドのカレーに添えられる主食の一つ、チャパティは何からつくられているか、Aにあてはまる農産物の名称を答えよう。

A

問2

下線部bについて、Bにあてはまるドーサーの原料となる農産物について、教科書p.98の本文を読み、答えよう。

B

問3

下線部cについて、次の各問い合わせよう。

(1) 地図帳p.1~2やp.31~32でデリーとケーララ州にあるコジコーデの位置と緯度を確認し、日本列島周辺や東南アジア地域ではどの地域にあたるか比べてみよう。

	緯度	日本列島周辺や東南アジア地域ではどの地域にあたるか
デリー		
コジコーデ		

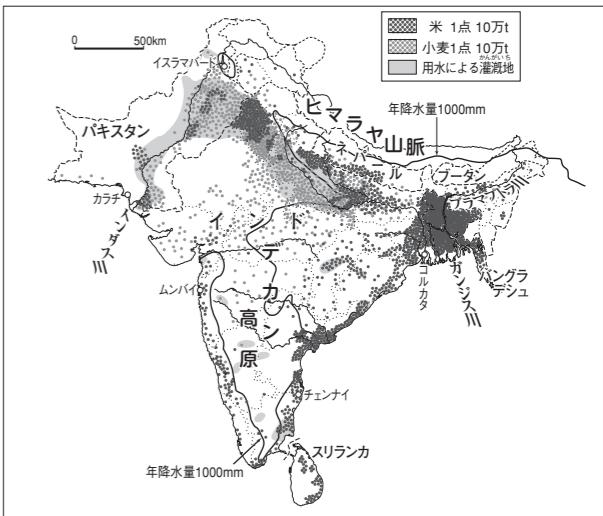
(2) インドでは稻作地はどのようなところに広がっているだろうか。教科書p.98「②南アジアの農業地域」で分布する地域を確認し、地図帳p.33~34「①インド要部」「②インド南部・スリランカ」、見て、2か所挙げてみよう。

(3) インドで小麦の生産が盛んな地域を教科書p.98「②南アジアの農業地域」の分布図で確認し、地図帳p.33~34「①インド要部」を見て1か所挙げてみよう。

(4) 地図帳p.34「④南アジアの米と小麦の生産」を見て、年降水量1000mmのラインと小麦・米を生産している地域の分布にはどのような関わりがありそうか、読み取ってみよう。

(5) 右の図に、地図帳p.144「⑥世界の気圧と風向7月」を見て、7月の風向を青色で書き込み、この風の名称を答えよう。

名称



(6) (5)で書き込んだ風向と地図帳p.31~32、33~34から分かる地形の様子から、ケーララ州などインド南西部で年降水量1000ミリの境が生じる理由を、山脈に着目して答えよう。

(7) (1)～(6)を踏まえて、インドで稻作が盛んな地域と小麦栽培が盛んな地域はどのような地域といえるか、降水量や地形の関係に着目して整理してみよう。

問4

問1～3を踏まえて、次の会話文のCにあてはまる文を書こう。

ユウキさん：なるほど。教科書で見たデリーの料理とマコトさんが食べに行った南インドの料理が違う理由が分かったよ。

マコトさん：こんなふうに地域の食事は、その土地の気候を生かした農業とのつながりが深いんだね。

ユウキさん：へえー！人々の生活や食文化は、(C) というわけだ。
さて、カレーが来たよ。もうおなかペコペコ！いただきまーす！

インドの食文化と自然環境の関わりを探究する ワークシート活用例

田園調布学園中等部・高等部 山田 智之

探究活動の土台となる地図帳の活用

今年度から高等学校で始まる「地理総合」において、地図帳を有効に活用することは、探究活動への第一歩となる。授業では地域の基本データを毎時確認し、知識の定着を図りたい。インドの場合、面積328万7千km²(2019年)、人口13億1224万人(2019年)。数字だけでは生徒はイメージがわきにくいため、日本との比較を適宜入れるとよい(面積は約8倍、人口は約10倍)。地図帳の活用について、「新詳高等地図」(以下、地図帳)p.31~32の「南アジア」全体図で、次の経緯線を確認させる。北緯10度(インド半島とスリランカ北部の境)、北回帰線(ヴィンディア山脈とナルマダ川付近)。ここから南の地域がデカン高原の広がる南インドである)、北緯30度(首都デリー付近。日本では種子島・屋久島付近)、北緯35度(カシミール地方。おおよそ東京の緯度にあたる)の4つ。そして東経70度(インド・パキスタンの国境付近)、東経90度(インド・バングラデシュの国境付近)の2つである。学習する地域が日本より北にあるか南にあるか、また東であるか西であるかを調べ、空間把握力を養うことが大切である。こういった作業においては、広範囲を見渡したり、正しい位置関係をとらえられる地図帳を積極的に活用したい。

ワークシートを活用した授業展開例

設問項目にある降水量分布の特徴(等値線の確認)および季節風の風向きの読み取りの前に、「新地理総合」(以下、教科書)p.62の「大気大循環」を復習し、緯度帯が各気候帯におよそ対応することを確認する。探究的な要素としては地図帳p.141~142の「①世界の気候区と海流」が活用できる。最初にデリーとケーララ州のおおよその気候区分を調べることから始める。例えばデリーはBSとCwの境界付近、ケーララ州にはAw・Am・Cwがみられることを読み取らせる。気候区分が境界付近で読み取りが難しい場合、ペアワーク

やグループワークなどを通して生徒同士で話をしながら取り組ませると、意見や考えを述べやすい雰囲気をつくることができる。次に、降水量1000mmのラインと気候区の関連にふれ、BW・BSとAm・Aw・Cwとの境目になっていることに気づかせる。さらにAmとAwの違いが生じる理由として、生徒自身が季節風(モンスーン)と西ガーツ山脈を挙げられるようになれば、季節風がこの地域の自然環境を特徴づける大きな要因であるという理解に至るだろう。

西ガーツ山脈以外に、地形ではインド地域を北部と南部に区分するデカン高原にもふれておく。デカン高原の基盤は先カンブリア代の岩石であるが、中生代頃の隆起と溶岩噴出によって西ガーツ山脈(標高1000~1500m)が形成された。ゴアから北側は玄武岩質溶岩の溶岩台地で、レグールの土壤は保水力に恵まれ、天水で綿花や小麦などの作物を栽培できる。

最後に、問3(5)の図の読み取りに関連して、地図帳p.173「⑥世界のおもな産物 農林水産物」の欄で、米と小麦の世界生産量(米: 7億5547万t、小麦: 7億6577万t)(2019年)からインドの生産量を計算させ(米: 1億7754万t、小麦: 1億338万t)、日本の生産量を自分で調べることで、その多さが分かる。インドの巨大な穀物生産は、こうした自然条件に支えられたものである。

ヒンドゥー教と食文化の関係

探究活動の入口としての宗教文化

教科書p.99の8~10行目ではヒンドゥー教と菜食主義の関係に触れている。菜食主義の理由には、アヒンサー(慈悲・不殺生)が挙げられる。アヒンサーという考え方は、どこから生まれたのか。調べる過程で仏教やジャイナ教を手がかりに考えさせられれば、インド思想や文化の特徴にも視野を広げられる。倫理などに关心を抱く生徒にとっては、こうした歴史的経緯を追う展開例もおもしろいだろう。

右面の解答例はコピーしてご活用ください。

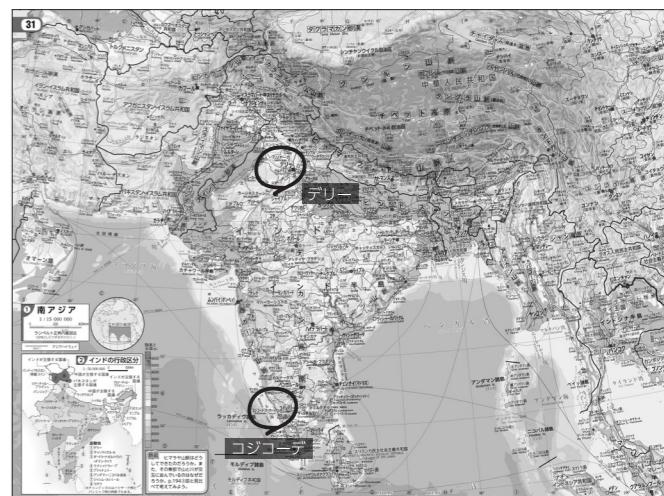
問1 A 小麦

問2 B 米

問3 (1) デリーとコジコーデの位置は右図の通り

	緯度	日本列島周辺や東南アジア地域ではどの地域にあたるか
デリー	北緯28度	例) 鹿児島県の奄美大島 など
コジコーデ	北緯11度	例) フィリピンのセブ島 など

『新詳高等地図』p.31~32 (一部)→



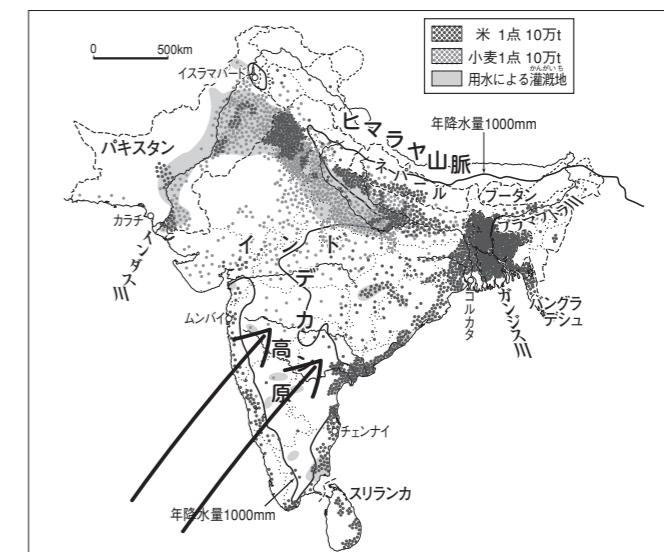
(2) 例) 1つはヒンドゥー平原のガンジス川流域やガンジス川河口部のデルタ地帯、2つ目はムンバイから南にかけての海岸沿いの地域(3つ目としてコルカタから南にかけての海岸沿いの地域を挙げてもよい)

(3) 例) 北部のパンジャブ州周辺の地域

(4) 例) 年降水量1000mm以上の場所では米の生産が多い。年降水量1000mm未満の場所では小麦の生産が多い。

(5) 風向は、右図の通り

名称 季節風(モンスーン)



(6) 例) 7月(夏季)に南西から吹く、インド洋上で水分を含んだ季節風が西ガーツ山脈にぶつかり、風上側の地域で降雨をもたらすため。

(7) 例) 稲作は、年降水量が1000mm以上で、ガンジス川の流域やデルタ地帯などの低平な地域や西ガーツ山脈の風上側の地域などで盛んである。小麦栽培は、年降水量が1000mm未満の乾燥した地域で行われ、インドとパキスタン国境のパンジャブ地方で盛んである。

問4 C 例) その地域の自然環境と深く関わっている

発展

次の国や地域でも地図帳を使って食文化と自然環境との関わりを見いだしてみよう。

●中国 地図帳p.13~14、p.17③図、④図、⑤図。

●ヨーロッパ 地図帳p.63①図、②図、p.148⑨図、教科書p.72~73、p.140。